

# 新文化 「光和コンピューター セルフレジ販売へ」

2020年(令和2年)3月26日

光和コンピューター

## セルフレジ販売へ

価格170万円、雑貨・文具にも対応

光和コンピューターはこのほど、セルフレジを開発し、6月をめぐり販売を開始する。人手が足りないという書店経営者の要請に応える。セルフレジはJANコードが付いた本、雑貨・文具など、すべてに対応するもの。他のメーカーで開発された既存のセルフレジの価格は300万円程度だが、同社では約10万円という廉価で販売する予定だ。

光和コンピューターが、にじた。同社が標準POS販売するセルフレジのハ Sとして販売しているPードウェアほどのメーカ OSシステムのモードをーにも対応している。釣 切り替える。書店来店 銭機はグローリー製の 者が決済できるように改 「釣り銭機」を標準仕様 良した。

客はJANコードが付 与されている商品であれ は、本以外のアイテムも 同社のK-POSで精算 できる。クレジットカード 対応をはじめ、QRコード

を用いた各種Pay系 suica、WAON、nanacoなどのFeli ca系決済にも対 応するという。 書店にはK-POS、

釣り銭機を一体収納できる 什器とセットで販売す る。その大きさは幅約80 センチ、高さ約1・3メートル。 同社では5月から、書

店にテストを行った後、 販売を開始する予定。販 売目標について、同社、 多田元晴取締役は「まず は30台、年間で100台 を目指したい」と話。 例えば、100坪の売 場をもつ書店であれば1 台、300坪の書店には 2台の導入を提案してい

く。 同社には、書店経営者 から社員が減りアルバイトの手配がつかない

という理由から、セルフ レジを開発してほしいと いう声が複数寄せられて いた。 セルフレジを導入する ことにより、書店の人員 費削減に寄与していく。 書店は導入後、セルフ レジの操作に不慣れな客を サポートする書店員が必 要であるが、客が慣れて ければ、「無人」で運用 できるとみている。今後、 通常のレジ台と合わせて 運用する書店が増えよう だ。

ブックカバーについて は、客自身で付けられる よう、セルフレジの近く に置いて、自由に持ち帰 ってもらいたいことを想定し ている。

また、7月から有料化 が義務付けられるレジ袋 もセルフレジ周辺に置 き、精算できやまのナペレーションを提案す る。

また、7月から有料化 が義務付けられるレジ袋 もセルフレジ周辺に置 き、精算できやまのナペレーションを提案す る。